

食品科学科

手づくりジャム、チーズ

地元スーパーで販売

手づくりジャムやチーズいかが

飛騨高山高生がスーパーで販売

高山市の飛騨高山高校食品科学科の生徒が製造したジャムやチーズなど十種類の食品の販売が二十七日、同市岡本町のスーパー「駿河屋アスモ」で始まった。売り切れ次第、終了する。

食品の販売は、同校が市内のスーパーと連携して定期的に実施している。この日は「お客さまから生の声を聞ける貴重な機会」と生徒四人が直接、来店客に対応。入り口付近の特設販売

ブース横に立ち「機械はほとんど使わず、私たちが手づくりしています」などとアピールした。

今まではジャムだけしか扱っていなかったのを、生産設備が整ったことから今回、モッツアレラチーズと裂けるチーズ、ソーセージ、ハムなどを追加。また、学校の果樹園で栽培したリンゴや飛騨地域の生乳を使用し、地元産の原材料にこだわった。三年の杉本

華音さん（も）は「チーズの塩分調整など、細かいところまで皆で意見を出し合った。自作のパッケージも、学校名を大きく表記して工夫した」と話した。

（平田志苑）



来店客等に商品の説明をする生徒＝高山市岡本町の駿河屋アスモで